

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和元年十一月度 入選句（投稿総数三千五百五十二句・小中学投句数三千六十八句）

特選

いねかりを終えた田んぼは鳥のにわ 大垣市

高橋 未唯南(小五)

「鳥のにわ」がいいですね。いねかりを終えた田んぼは、「鳥たちにとつて絶好のえさ場」だということです。十月は稲刈りの季節です。今は、稲刈りも手作業から機械化されています。それでも鳥たちが好むえさが、いつばい残っています。きつと、落ち穂などをついばんだ鳥たちは、おなか満腹になったことでしょう。

ゆげの中祖母の笑顔とさつま芋 加茂郡川辺町丹羽 卯月中三

さつま芋をおばあさんが、ふかしてくれましたね。ふかしたさつま芋から、できたてのおいしそうな湯気が立ちのぼっているでしょう。その湯気の中に、『ほら、おさつができたよ。早く来て食べてごらん。』と、笑顔で作者に呼びかけるおばあさんの姿が目には浮かぶようです。おばあさんのやさしく暖かな人がらまでもが想像できます。

のぼりぼうあきのそらへともうすこし 大垣市 川瀬 結愛(小三)

「あきのそらへともうすこし」が、いいですね。晴れた日の秋の空は、どこまでも澄みわたり、遠くの山々も近くに見えるほどです。作者は、のぼりぼうをぐんぐんのぼりつめて、もう少しで秋の空に手がとどきそうだと詠ったところが見事です。腕と足を使って、のぼりぼうのてっぺんを目指す元気な姿が浮かんできます。

秀逸

カモの群ゆうがに泳ぐ親子づれ 大垣市 大橋 妃那(小六)

川とうだいさくらもみじでかくれてる 大垣市 大橋 勇斗(小六)

みのむしがはっぱのなかでとじこもる 大垣市 林 春 希(小四)

冬支度タンスのおくでねてた服 大垣市 ビリヤロホナデル(小五)

妹がコスモスみつかけかみかざり 大垣市 山本 笑 瑚(小五)

はなざむいふとんくるまるふゆどなり 大垣市 幸 谷 葵(小三)

こがね色田んぼのいなほみなおじぎ 大垣市 高木 ひより(小四)

読書して本の世界へはいりこむ 大垣市 船戸 麻帆(小四)

神無月早く神様来てください 大垣市 小塚 暖子(小五)

かたまつてまつかないろのひがんばな 大垣市 鈴木 唯(小三)

入選

喜びで終わる最後の運動会 大垣市 矢田 眞弓(小六)

雨つぶがさくらもみじの葉に光る 大垣市 古田 華乃子(小六)

全力を出しきったよね運動会 大垣市 河村 咲泉(小六)

秋日和雲一つない青空だ 大垣市 白井 菜々美(小六)

空ひびく運動会の応援歌 大垣市 福井 梨乃(小六)

団リーダー背中かがやく運動会 大垣市 森谷 思嘉(小六)

ここちよいほおに感じる秋の風 大垣市 増田 翠(小六)

のびていく空までとどけ芭蕉の葉 大垣市 水越 咲和(小六)

日が沈みカーテン開けると星月夜 加茂郡川辺町 木下 仁唯南(中二)

ひがん花どてがまっかにそまってる 大垣市 伊藤 麻央(小三)

入選

赤とんぼぼくのゆびにもとまっつてよ 大垣市 河合 皓生(小四)

ゆずぶろで心も体もぼつかぼか 大垣市 高木 研輔(小四)

さつまいもほって大きき競い合う 大垣市 河合 良音(小六)

奈良の鹿エサをくれよとおじきする 大垣市 室 琉 奈(小六)

秋日和光かがやく金閣寺 大垣市 今井 日暖(小六)

墓参り愛犬にまた会いたいよ 大垣市 杉野 煌太(小五)

風にまうダンスパーテイ落ち葉たち 大垣市 谷口 紅愛(小五)

いいにおい今日からご飯が新米だ 大垣市 中村 爽音(小五)

射的する私はガンマン秋祭り 大垣市 小田切 亜実(小五)

みの虫さん温ったかそうなふとんきて 大垣市 大倉 心響(小五)

選者吟

五重の塔のこし木枯吹き抜ける

幹

郎